

5. 通信・実証・普及

画面下部の日時をタッチすると、日時リストが表示され選択でき海況情報等を切り替えることが出来る。日時の切替えは1時間前後への移動用ボタンも用意している。画面下部の日時を挟む“<”および“>”ボタンが該当する。深度の変更も同様に行える。深度が書かれたパネルの数値部をタッチすると深度リストが表示され選択できる（図 51- 10）。また“^”および“v”ボタンで前後の層への移動が行える。ただし通信圏内時には10m 毎の層移動とした（図 51- 11）。

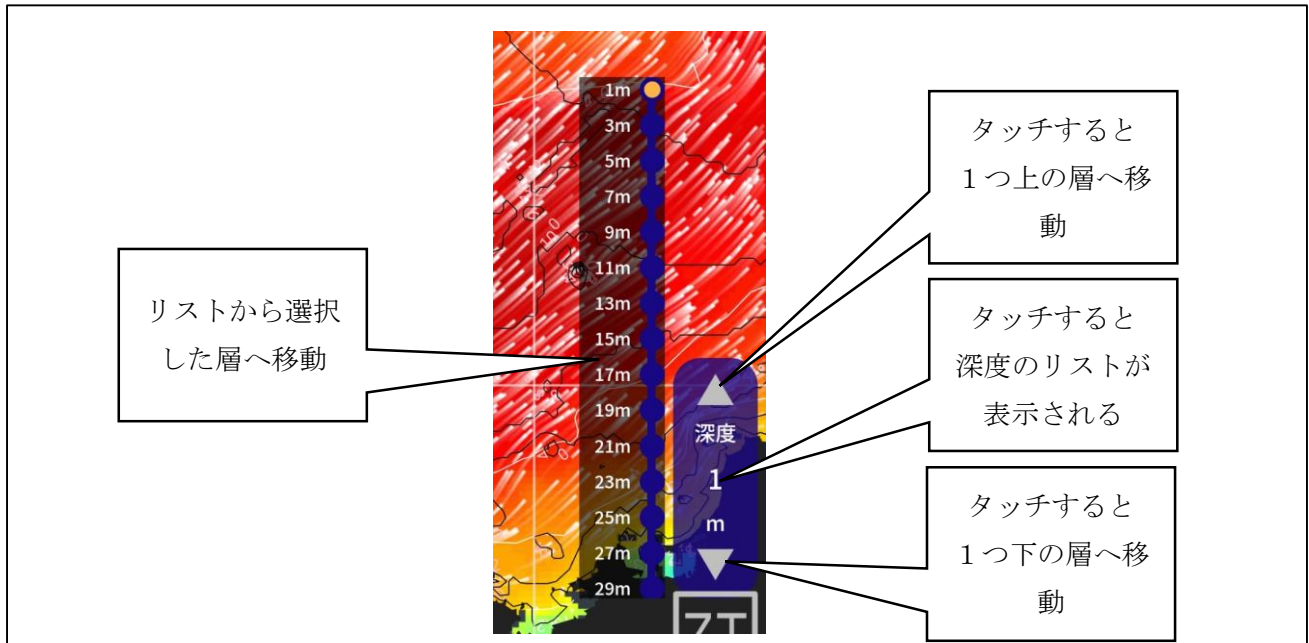


図 51- 11 深度の切替え

4) Z-T グラフ表示

任意の場所の時間経過に伴う変化を確認できる Z-T グラフを表示することが出来る。画面中央に表示されたカーソル（+マーク）を Z-T グラフを表示したい場所に合わせ、画面右下の **ZT** マークを押すことで Z-T グラフは表示される。Z-T グラフが表示された画面内でも、データ種類の切替えや深度の範囲を指定し再描画を行う事も出来るようにしている（図 51- 12）。

5) 通信圏内モードと通信圏外モード

通信圏内モードは、携帯電話の通信圏内での利用を想定した機能である。そのため海況情報を切り替える場合は都度サーバへアクセスし最新データの取得を行う。通信圏外モードは海上などで携帯電話の通信が届かないエリアでの利用を想定した機能である。通信圏内にいる間に海況情報を情報携帯端末にダウンロードし保存しておくことで実現している。

通信圏外モード用の海況情報のダウンロードは、任意の深度を予め指定して行う。すべての海況情報をダウンロードしてしまうと膨大なデータ量となってしまう、通信契約の上限を簡単に超えてしまう可能性があるためである。また、通信圏外で利用する海況情報ダウンロードを1日1回ではあるが自動で行

うスケジュール機能も用意した。ダウンロード対応とする深度及び自動ダウンロードのスケジューリングは設定画面から行え、任意の時間を指定できるようにしている(図 51- 13)。

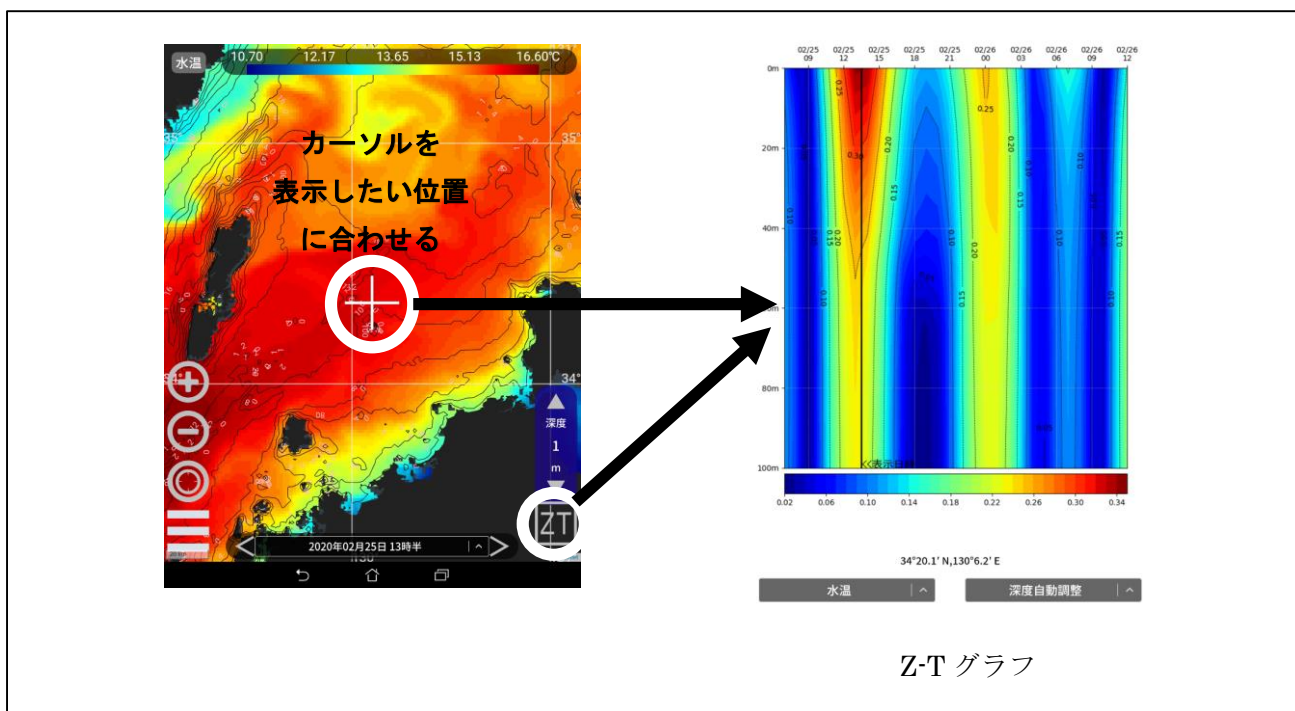


図 51- 12 Z-T グラフの表示



図 51- 13 設定画面での通信圏外モード設定

5.1.5.3.3. 海況情報表示機能

海況情報の表示機能では、海況モデル予測 DR_D 及び DR_S に対応した。データの種類としては潮流、水温、塩分に対応し、それぞれを地図上に画像化またはアニメーション化したデータを重ねて表示する。海況情報の切替え、データ種類の切替えはメニューから行えるようにした（図 51- 14）。

DR_D は水平分解能 $1/60^{\circ} \times 1/75^{\circ}$ であるのに対し DR_S はより高分解能の $1/300^{\circ} \times 1/375^{\circ}$ である。海況情報表示でも DR_S の高分解能データから高解像度画像に変換し表示できるようにしている（図 51- 14）。ただし DR_S はオフライン機能では利用できない。オフライン用のデータとした場合に 1 度にダウンロードするファイルのサイズが大きくなりすぎる事と、DR_S の領域が通信圏内用機能の利用が可能なエリアである事が多く存在するため、オフライン版の必要性が低かったためである。

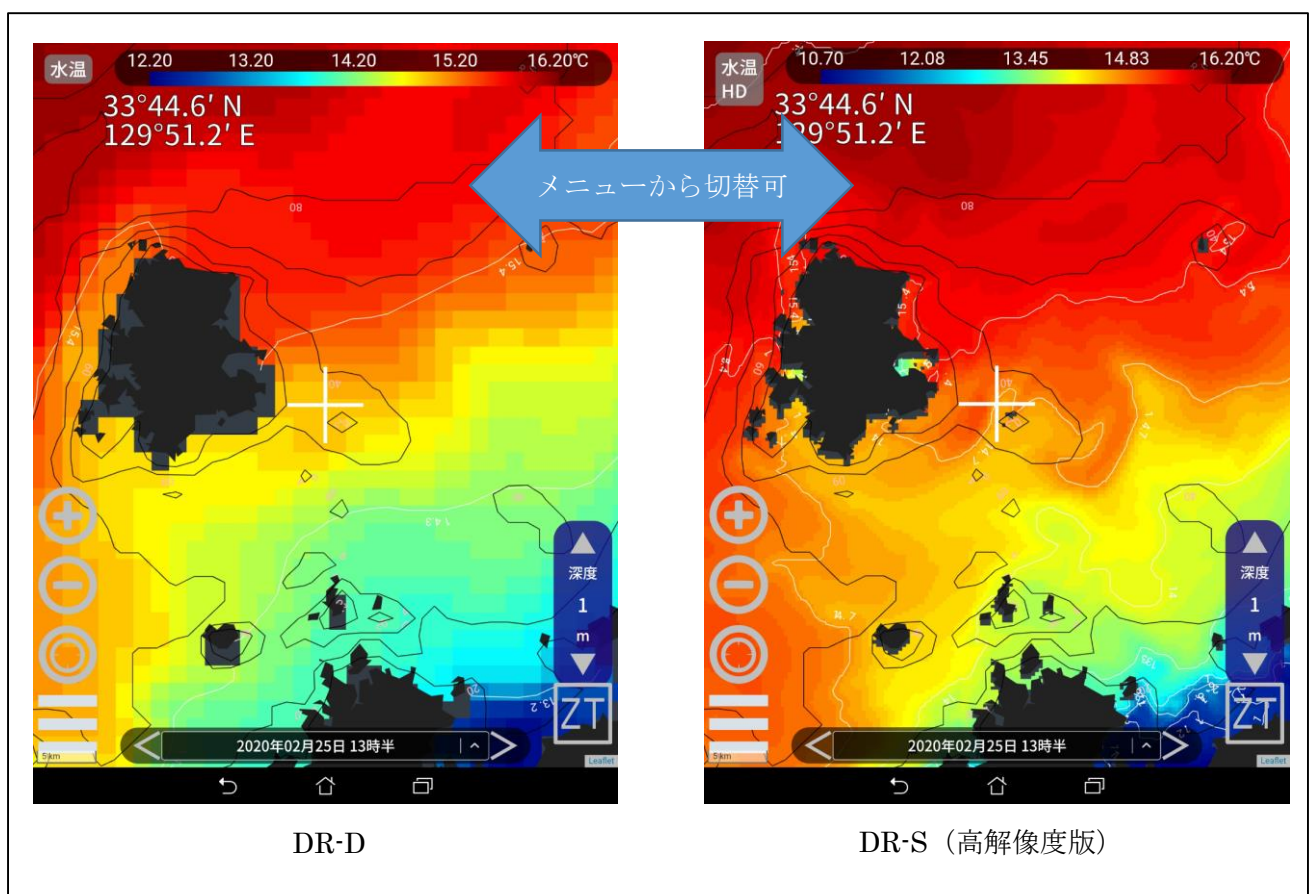


図 51- 14 海況情報のモデル予測切替え

1) 潮流情報の表示

海況情報の潮流表示では、流れを直感的に捉えられるように粒子が流れるアニメーション表現を採用している。粒子の流れが早ければ流速が早く、逆に粒子の流れ遅い場所は流速が遅い。潮流のみを単独で表示した場合は、流速のよって粒子自体の色を変えることによって、より分かりやすく捉えられるように工夫している（図 51- 15）。

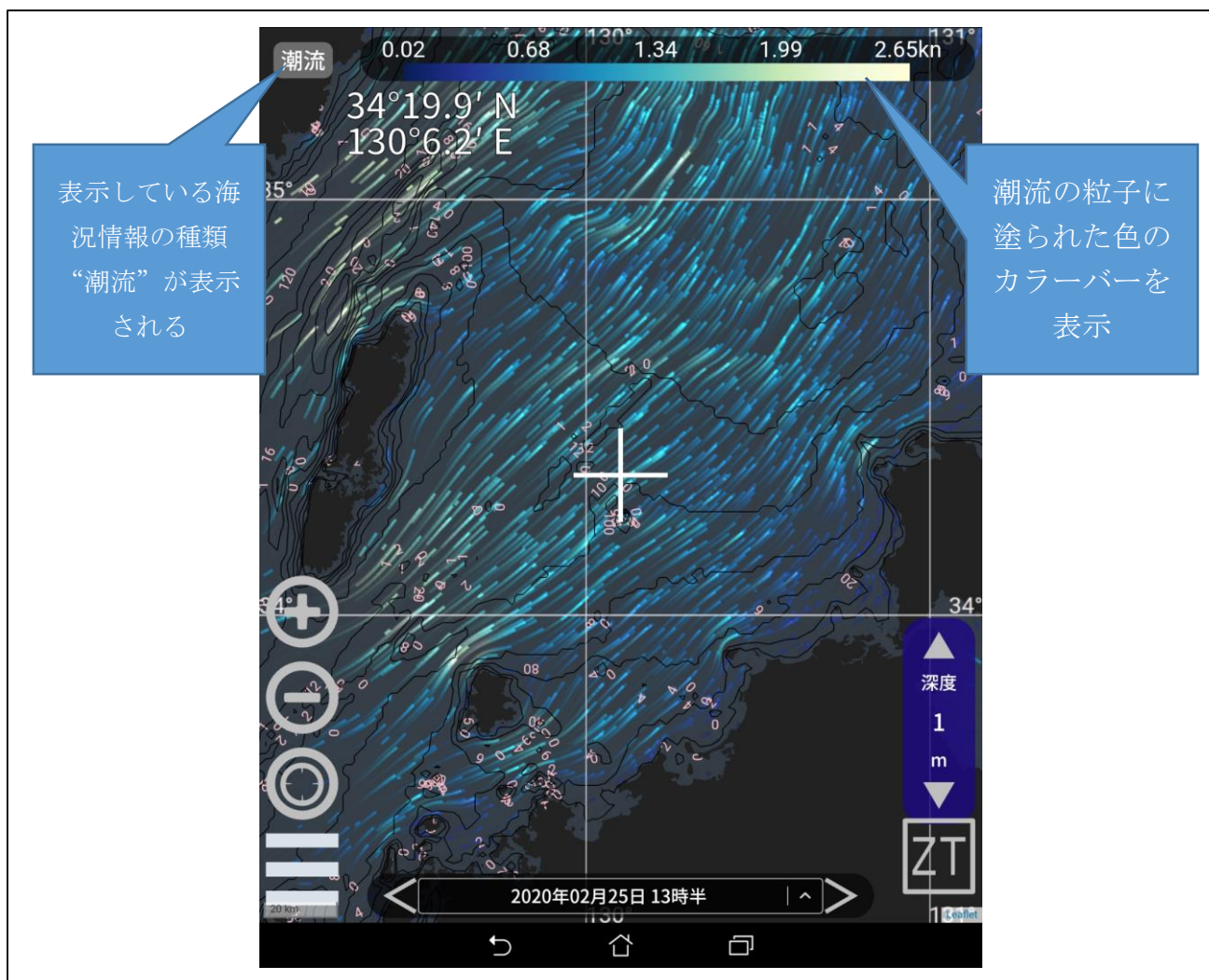


図 51- 15 潮流をアニメーション表示

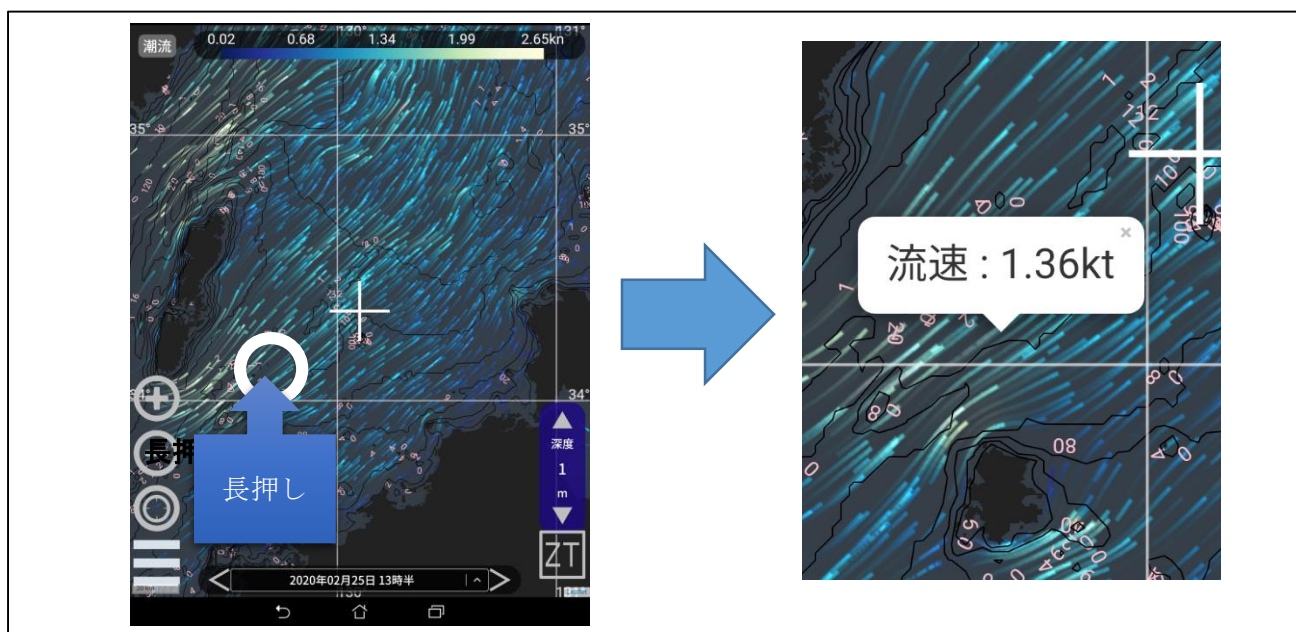


図 51- 16 任意の場所の流速表示